

スクールカウンセラー便り

3月5日

もし、皆さんが、事故で片腕を失ったとするとどんなことを考えますか？両腕を使わないとできない作業がほとんどだと思います。ですから、片腕になってしまうと、何もできないと、打ちひしがれて、意欲をなくし、引きこもってしまう人が大半なのではないかと思うかもしれません。

しかし、そうした逆境にもめげず、特別な義手を使い、自分の可能性に挑戦している人がいます。伊藤真波さんという人です。この人は、20歳の時、交通事故により片腕を失いましたが、小さいころからの夢だった看護師になることを諦めず、義手を用いた看護師として就職。その後、2008年北京パラリンピック平泳ぎで4位入賞、2012年ロンドンパラリンピックに出場しています。その後、昔習っていたバイオリンに挑戦しています。彼女を支えるのは、「やりたいことがあったら、一人で何とかしようとせずに、やってみたいと言ってごらん。味方は絶対にいるから。」といった信念です。できないと自分から制限を設けず、これを叶えるためにはどうすればいいかを考えることにより、自分の可能性を広げてきました。興味のある人は、右のQRコードを読み取ってください。



「人の一生は重荷を負うて遠き道をゆくがごとし」といった人がいましたが、自分一人で抱えきれない重い荷物であっても周りの人の助けをもらえば、必ず運べるものです。自分一人で運べない重い荷物で困った困った、どうしようと考え込み悩んで、いないで、誰かに話してみましよう。必ず、気持ちがすっきりしたり、見方が変わり良い解決法を思いついたりできます。

困ったことや悩みごとなどあれば、迷わず、スクールカウンセラーをはじめ周りの先生、保護者に相談し、毎日すっきりとした気分で生活していくようにしてください。

スクールカウンセラー 上垣 博和